

花粉症に油断は禁物

今年のスギ花粉症は、平年よりやや花粉の飛散量が少なかったため、比較的軽症で済んだ方が多かったようです。東日本では昨年の数倍のスギ花粉の飛散が予想されたため、大阪でも大量の花粉が飛ぶと考えられて、早めに治療を始めた方もおられました。

スギ花粉症に続いて引き起こるヒノキ花粉症は、花粉予報でよく知られていますが、5月から6月にかけて起こるイネ科の雑草による花粉症は、まだあまり知られていません。患者さんの各花粉症の重症度を血液検査で調べると、イネ科の雑草による花粉症はヒノキ花粉症よりも高く、スギ花粉症とほぼ同等です。

また、地域により飛散量の差があるために、堺に移って来て症状が悪化したという患者さんもおられました。スギとヒノキ、イネ科と複数の花粉に悩まされる場合も多く、そういう方は早春から夏までの長期にわたって花粉症の症状に苦しむことになります。

一般に夏になれば症状が軽くなる方が多いのですが、わが国では一年中何らかの花粉が飛んでいるため油断はできません。秋になればブタクサなどの雑草の花粉がかなり重症の花粉症を引き起こします。また、以前は花粉症といえば成人の病気でしたが、最近は小学校低学年の児童でも多く見られます。

花粉症は花粉の飛散量で症状が左右されます。したがって、飛散量の少ない年は症状が軽く、「もしかしたら治ったのかも？」と考えがちですが、体の中のアレルギーはしっかりと保たれており、花粉の飛散の多い年には重い花粉症に苦しむことになります。

以上のことから、大切なことは、症状の軽いときであっても放置せず、花粉症をコントロールするという意識を持ち続けることなのです。

平成12年 7月
大野 義春